



介護体験を

聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

会報第171号
平成28年5月15日発行
発行所…(有)明寿会
住所…川崎区中島1-13-3
電話044-2333-0061
*定例会は最終土曜日です。
(今月は5月28日)です。

第172回 介護体験を聞く会

平成28年4月30日(土)
に開催

議題

1. デイケア室で笑顔が増えたMさん92歳女性の事例
2. デイケア、デイサービス家族相談
3. 28年度会計報告

出席者(職員)…院長、柳田CM、柏倉、梅本、厚川、前田、吉田、漆原
出席者(家族)…小幡さん、野々目さん、藤田さん、森さん、森下さん、柳澤さん

①. デイケア室で笑顔が増えたMさん92歳女性の事例
検討の目的…認知症を発症されて7年(デイケア

利用5年)、現在も在宅で頑張っておられるMさんとそれを全面的に支える息子さんについての事例を検討しながら、認知症介護の実情を共有し、かつ認知症に対する意識向上を図ります。

氏名:Mさん女性92歳
生年月日:大正13年2月27日
介護度・利用状況:要介護5 週3回ご利用(火・木・土)

出身地:川崎
趣味:ゲートボール
性格:穏やか
主介護者:長男

「既往歴」平成23年5月
左大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換手術)、膀胱癌手術

平成27年2月 右大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換手術)

グルーブホームが 夢見ヶ崎動物園に遠出しました



「内服薬」
マグラックス錠250mg
:胃酸を中和させる作用・便を出し易くする作用

「塗布薬」
オキサロール軟膏:皮膚の角化症や乾癬を改善する作用

「生い立ち」
大正13年、川崎に生まれ育つ。27歳頃に結婚され、息子さん2人を授

かりました。ご実家が和菓子店と食堂だったことから調理の仕事をされていたそうです。昭和50年にご主人が他界され、その後も病院での調理の仕事をした。認知症を発症される前は、近所の公園でゲートボールを楽しまれ、買物に行かれていたとの事です。

「ご家庭での様子」

平成21年頃、身体は元気でゲートボールや買物にも行かれていましたが、夜中に起きて朝食の支度をしたりする見当識障害(時間の感覚が無くなる)・認知症の中核症状で、場所・人物と症状が進行する)が出始めたそうです。

平成23年の2ヶ月に及ぶ入院で急激に認知症が進行してしまい、ふらつきがあるのに歩き回る、夜の睡眠は3日置きというBPSD(認知症の周辺症状)が現れ、「夜に寝てくれるといいのに」と当時の息子さんの気持ちに記録されておりますし、「その頃の自宅での介護が一番大変だったと

記憶している」とコメントも頂きました。平成27年の入院でADL(日常生活動作)の低下を機に基本的に車椅子生活となりました。日中は穏やかで、ベッドとトイレの間は息子さんの両手引きにより可能でしたが、先日息子さんが目を離れた隙に転倒してしまい、更に歩行が難しくなっているとの事です。又、「発語が難しく会話が成立しませんが、母自身、自分の意思を言語で表す事が出来ないのが辛いと思います。介護する側は身振り手振り振りで判断しなければなりません。」とコメントを頂きました。

「デイケアでの様子」

ご利用当初は、多動でふと椅子から立ち上がり、ふらつきながらもデイケア内を歩き回っていました。数回繰り返せば指示が通る事もあり、ADL(日常生活動作)は部分介助レベルだった為、デイケアでは声掛けや見守りの上、一部介助の対応を行って頂きました。又、内容は伴いませんでした

が言語は明瞭でした。しかし、認知機能維持・筋力維持に努めて参りましたが、昨年の入院を機に現在はデイケアでも車椅子対応となりADL（日常生活動作）は一段と低下、言語も不明瞭となり指示が通る事も少なくなっ
てしまい、デイケアでの対応も全介助が増えました。その様な状態でも、食事は途中までご自身で箸を使用して召し上がられます（意欲が持続しない為、その後は要介助）。2人介助（前で両手引きの為に1人、後ろで腰を支える為に1人）で歩行訓練も行っています。体調を確認しながら、そのまま階段を昇る日もあります。定期誘導によりトイレでの排泄も維持して

動物園でくつろぐ高齢者



います（失禁の為、パット交換もあります）。指示が通らず言語も不明瞭な為、会話は成立しませんがノンバーバルコミュニケーション（表情や素振り、仕草）で、職員や他の利用者様達と交流をしていますし、快不快をしつかりと表しています。素敵な笑顔を見せて下さる事も多々あります。偶然にですが、職員の「おはよう」の声掛けにはつきりとした発音で「おはよう」と答えてくださいます。これはオウム返しかもしれません。しかし、職員の「どうぞ」に対して「ありがとね」と返して下さった事もありました。

「意見交換会」

「今後について」

認知機能の維持・筋力の維持向上・歩行能力の維持向上を目標に掲げ、ご本人様の体調を確認しながら各訓練を実施・継続していきます。その上で、出来なくなつた事や低下した機能を認める事も大切ですが、現在出来てい

る事に目を向けてそれを維持して行ける様に介護職として見守り続けたいと思います。最後になりましたが、ご家族から頂いたコメントを紹介させていただきます。「リハビリを続けADLを上げ、歩く事が出来ればと思います。自ら歩かなくなれば、身体も心も萎えてきてしまふと思います。私との間では会話が難しいので、皆さんがどんな話し掛けてやって下さい。これからは介護が大変になるので、よろしくお願いします。」

Mさん：最初は介護度2くらいだった。1年前には入院中で介護度5になった。

院長：認知症にはきっかけがある。入院したとか、ご主人が亡くなったショックとか。Mさんの場合には転倒して頸部骨折で入院、それが認知症の進行のきっかけになった。入院した場合にいつでもトイレに行けたのが行けなくなったり、看護師がなかなか来てくれないとか、夜寝れないとか色々なことで

認知症は急速に進行する。Mさん：退院後はなかなか夜寝なかった。しばらくは大変だった。今は寝すぎるくらい寝ている。体力が無くなってきた。この環境をどういうふうに分らないという不安が大きい声になって表れてきたのではないかと思う。最近はどういうことが減ってきたのかと思う。他の利用者の中にはMさんの面倒を見ようという人

もいる。そういう中で安心感が増えているのかもしれない。Mさん：最初の頃は言葉もはつきりしてましたけど、言葉が出なくなってきたのは脳細胞が死滅してきているのか。院長：そういうことになりません。脳にも色々な役割分担があつて記憶の部分や言語の部分とか前頭葉にあり、そういうところが侵されると認知症という事になっていく。

CM：実家は農家だったんですか。Mさん：食堂だった。お団子を作ったりもしていた。得CM：Mさんの兄弟はいらっしゃったのですか。Mさん：7人兄弟だった。名前を出せば反応がある。子供のころの記憶は残っている。院長：そういう生活歴を踏まえてのケアが認知症のケアになってくると思う。認知症の介護はそこが大事。Nさん：うちの姉は言葉をかけても全然返ってこない。知らん振りしてる。片付けてもすぐに散らかしてしまふ。CM：Fさんは何か困ってますか。Fさん：だんだん子供みたいになってきた。植木に水やりに行くとか「早く帰ってきてねー」。どこも行かないよと言うと「ああ、良かった」と言う。子供になっちゃったのかな。院長：どうしても不安が強くなるんですね。そろそろ介護サービスを受け

ても良いころだ。

「決算報告」

平成27年度介護体験
を聞く会決算報告

収入…前年繰越金10
3690円、毎月の会費
44200円、カンパ2
00円、収入合計148
290円(1000円あま
り)
支出…切手代8200円、
伊勢屋お菓子代3895
0円
残高…100940円
郵便振替口座残高…75
290円
最終合計残高…1009
40円+1000円+75
290円=1176330
円

(参加者総員拍手で承認)
グループホーム旭町
漆原

介護風景から

「熟女の女子会」

スタッフ…「皆さん、今
日は女性陣だけで川崎大
師へお出かけして、参道
を歩いておいしいお饅頭
を食べて帰りますよ」
さん…「歩くの？歩きた

くないから行かなくていいわ」

Tさん…「それはどうし
ても行かなきゃならない
の？留守番はできない？」

スタッフは『どうしよう
：皆さん行きたくないの
かな：』とは思いません。

「歩けなくなったら車椅
子もありますし、休憩場
所もあります。今日は天

気も良いのでここで座つ
て過ごすより、外の空気
を吸うほうがいいですよ。

連れてつちやいますから
ね。さあトイレ行つて、
靴を履き替えましょう！」

と利用者さんもスタッフ
も全員女性だったこの日、
参加者全員の気持ちを盛
り上げて出発です。

いざ参道前到着すると、
お宮参りのご一行に遭遇
しました。赤ちゃんの顔

を見せて頂くと、冒頭の「
皆さんを始め「可愛いわねえ、
美人さんになるわよ」と

のそれぞれが顔を覗いて
いらつしやいます。
するとお宮参り一行の一

人から「あら、こちらの
方も赤ちゃんを抱いてい
るのね！可愛いですね！」

抱いているご婦人Mさん

に声をかけて下さり、M
さんは言葉の代わりに笑
顔であいさつを返してい
らつしやいました。

50mほど進み「わらび
餅」の看板を見て冒頭の
さんは「わらび餅は一体

何で出来ているの？」お
店の方に質問し、「わら
びの根から作った粉で作

る”ことを聞き、「よかつ
たわ、初めて知ったわ。」
と笑顔になっています。

ダルマや飴のお店の横を
目もくれず颯爽と通り抜
けるWさんは「すぐそば

に住んでいたのよ、あら、
でもこの箸のお店は昔もつ
と小さかったのよ。くず

もち屋も随分変わったわ
ねえ」と街並みの変化を
感じていらつしやった様

子です。
杖をついて歩き続けてやっ
と休憩したKさん。「一

休みしたら池の鯉を見に
行こう。」興味は疲れを
どこかへ追いやり、途中

合流したスタッフの子供
と手を繋いで池の鯉を眺
めていました。

行きも帰りも周りを気遣
いながら車椅子で動いた
Yさんは「今日もし家に

いたら一人で変な事ばか

り考えていただろうから、
ここにきて良かったよ」

とご満足頂けた様子です。
外出をすることで、ス

タッフも利用者さんの普
段とは別の一面を知るこ
とができますし、何より

皆さんの気持ちが行く前
は後ろ向きでも、外での
笑顔、ダイケア以外の方々

との言葉や表情のやり取
りで自ら前向きにもなり、
思わず歩行も軽やかにな

り、スタッフ共々充実し
た時間を過ごせるのが外
出の醍醐味だと思った熟

女の女子会でした。
(文責…柳田ダイケア
杉山)

『新入職員紹介』

初めまして、新井幸二
と申します。

11月26日生まれの
62歳です。

リタイアしてからぶら
ぶらと過ごす毎日に、こ
れで良いのか自問自答を

繰り返し、まず自分の為
に、そして人や社会に役
に立つ仕事ができればと

考え、母親が喜んで通つ
ていたデイサービスや特
養の職員の事を思い出し、

昨年、初任者研修を受け
ました。

資格を取ったものの、お
風呂やトイレ、歌もダメ
だし、自分に介護の仕事

ができるのか、ここで又、
自問自答の日々を9ヶ月
過ぎ、何時も買い物の

行き帰り目になっているデ
イサービスのスタッフ募
集の掲示を思い出し、そ

の日、デイサービスの前
で思案していると、厚川
さんが下膳で出てきたの

で少し勇気を出して「こ
この方ですか」と声をか
けると「働きたいの」と

優しく答えてくれた態度
に、この人となら自分も
介護の仕事ができるので

はないかと直感しました。
出会いの必然性の不思議
を考えた瞬間です。

厚川さんが早速、院長
先生に取り次いでくれま
したので話が進み、院長

先生の「うーん、それで
は明日から始めてみまし
うかねー」の一言で、2

016年2月20日から、
この世界に身を置くこと
に成りました。

しかし、初出勤は、何
をしたら良いのかうろ
ろしている一日でグッタ

リでした。現在はDKに移り、明るく元気に働いています。

やっと利用者さんの名前と顔、個性やその日の体調等が少し解る様になり、自分が優しくなれたりに逆に元気を貰ったり、会うのが楽しみに成りました。

人は老いて行きます。今まで出来ていた事が出来ない、忘れた事が思い出せないもどかしさ、記憶が消えていく、でも生きていく。その事がその人の人生の証であり、尊厳を守る大切さを忘れず利用者さん一人ひとりに接していきたいと思えます。

最後に、還暦過ぎて最近、何時も前向きにプラス思考が自分を成長させるのではないかと考える様になりました。その方が疲れないし幸せです。スタッフの皆さん、是からも多分、迷惑を掛けると思いますが、宜しくお願いします。

自己紹介

板井 義憲

初めまして。3月半ばからグループホーム旭町に入社した板井義憲（いたいよし）です。青森県むつ市出身の32歳です。

趣味は温泉巡りや色々な観光地に出かける、熱帯魚の飼育、今年は海でダイビングをやってみようと思っています。介護職は5年程ですが、毎日楽しくお仕事出来ています。入社して早や2ヶ月、業務にも慣れてきました。まだまだ未熟なので先輩の方に色々教えてもらい、勉強になっています。

また、利用者様からの戦争時の体験話や、昔の生活の知恵、苦労話を聞くとても勉強になります。お話をされておられる時の表情は真剣であり、生き生きとされておられます。これからも一日、一日を楽しく過ごせるように頑張っていきたいと思いますので、よろしく願います。

「柳田グループ集団会」

柳田グループの集団会で職員の関心が深かった

脳の構成について簡単に報告します。

私たち人間の司令塔は大脳です。手足や内臓の働きはもちろんですが、肝心の判断や行動の指令は大脳活動です。間違った判断は、とんでもない行動をもたらすことは日常新聞をにぎわします。昨年2月にあった多摩川河川敷における少年達の事件は、たんなる少年の未熟な行動だけではなく、少年達の脳を狂わせたアルコールの影響であったことはメディアは報道しません。純粋な少年達の動物脳を興奮させ、人間脳を麻痺させたアルコールの結果である。問題は「公器」メディアのスポンサー依存がある。私たちは日々認知症にとりくんでいます。それゆえに人間の司令部である大脳についていつも考えている。人間の歴史は数百年もの歴史から獲得されたものです。それまでの樹上生活の古い動物脳を地上生活になり新皮質の下に押し込んできた。つまり人間脳は理性のちからで動物

脳を抑制し押さえ込んでいる。先日は福井県の永



* コカリナの演奏 ディサービスボランティアさん

平寺にいった。そこで参拝者を前にわかいお坊さんが、「みなさん、参拝の前に、みなさんの（頭の中に）観光気分を捨ててください。ここは修行僧の修行する場所です」と釘さされた。

人間は古い脳活動と理性脳とのたたかいを日々やっている。永平寺のお坊さんたちも400年やっています。これからは、私たちが進歩すること、強い意志で負けずこれをやりつづけるという意味でもある。

私たちの脳は現代社会からたえず古い脳を刺激されている、メディアによって。古い脳は弱肉強食時代の洗礼をうけ、油断すると誤った司令部となる。介護のケアレスミスについても論議した。介護とはケアということである。社会にあつて他人をお世話することでケアといい、ケアフル（注意深い）にも通じる。介護とは人を注意深くお世話することである。それが社会ではなく、世の中が自分と家族だけの狭い視野の人はケアレスミスが増える。集団を大事にする集団脳は新しい皮質の方で、動物脳は狭い家族脳である。弱肉強食で自分たち血縁者だけを守るライオンである。歴史から見ても社会発展が個人の発展をもたらしている。弱肉強食の発展は人間の戦争へすすむ。

私たちの福祉活動は一生自らの修行であり、古い脳と新しい脳のせめぎ合いであり、その勝利をめざすたたかいである。

（柳田）